

第08回

- 講演者：木村 正人 氏 (金沢大学)
 - 題目：衝突と分裂を繰り返す多角形運動と雪の結晶モデルへの応用
 - 日時：平成27年12月15日（火）16:30 – 17:30

辺の向きを保ったまま運動する平面内の多角形の時間発展モデル について紹介する．これは，平衡形に近づく結晶運動のモデルとして Angenent-Gurtin(1989)およびJean E.Taylor(1991)で 提唱されたクリスタライン運動が最初である．彼らは多角形の各辺に クリスタライン曲率（多角形 曲率）を定義し，曲率流方程式の 離散版に相当するものを考えたが，その後 Hele-Shaw流れの移動境界 問題などにも拡張されている．今回の講演では，正六角形を結晶の平衡形 とするクリスタライン運動において，辺の衝突や分裂 を許した新たな 多角形運動の枠組みを説明する．応用として，簡略化された 雪の結晶モデルとその数値計算例を示す．本研究は田中智恵（金沢大学自然 科学研究科 数物科学専攻）との共同研究である．

[<6>]

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/rs/seminar/2015/008>

Last update: **2017/11/16 18:27**

